

令和元年度第3回 山陽小野田市地方卸売市場運営協議会議事録

開催日時	令和元年11月6日(水) 13:30~15:40
開催場所	山陽小野田市地方卸売市場 会議室
出席者	<p>小野田中央青果株式会社 代表取締役 深井 篤 フレッシュ 高橋 真也 小野田中央青果仲買人組合 組合長 高橋 泰男 青果市場買受人組合 組合長 河内 良満 山陽地区法人・担い手連絡協議会 会長 田中 覺 株三昧 代表取締役 松村 正勝 消費者の会 会長 内藤 美恵子 学識経験者 村上 俊治 山口県農業協同組合宇部統括本部 営農経済部長 松永 芳明 公募委員 岩本 信子 公募委員 草田 和枝 山陽小野田市 経済部長 河口 修司 (事務局) 山陽小野田市地方卸売市場 場長 高橋 敏明 山陽小野田市 経済部農林水産課 多田参与、坂根主幹、平係長、稲葉</p>
会議概要	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 議題 (1) 運営協議会にて取組むべき事項について</p> <p>1 市場の運営をまかせられる人材の発掘 2 信頼できる市場づくり</p> <p>委員：市場が昨年のように活性化するようにこの会議に参加したい。 委員：前回まで市場は必要ということで話を進めてきたが、本当に必要なのか。また、卸売業者の現状を踏まえて宇部市の業者と合併するか、破産するか、民事再生するか等どうするか結論を出さないといけないのではないか。 委員：存続か廃止かの道筋を立ててから、話を進めていかないといけない。 委員：前回まで市場は必要ということで話を進めてきているので、取扱高を増やすには何が必要なのか、どうしたら回復できるかの議論をしていきたい。</p> <p>委員：そもそも運営協議会を立ち上げた理由は何か。 事務局：市場は継続していく、活性化させるということで運営協議会を立ち上げている。本日、一部否定的な意見もあったが、委員の概ね市場は必要という認識でいる。出荷者、売参者のためにも必要と考える。</p>

委員：前回から今回まで1か月間、中央青果がどういった営業をしたのか知りたい。また、前社長がどのような営業をされていたのか、どうしてこうなったのか本人にこの協議会に出席してもらい、説明してほしい。

委員：営業活動については、十分できていない。1社は取扱高を増やしてほしい。もう1社には、取引きを再開したいことを話したが、具体的なことまでは決まらなかった。

事務局：前回の協議会を踏まえ、委員会とまでは言えないが、「市場取引調整会議」を立ち上げ、市場での現場の声を出してもらい、情報提供・情報共有の場となっている。

委員：市場取引調整会議のおかげで、現場サイドはかなり良い方向に変わってきている。

3 学校給食等における行政機関との連携

委員：市役所と市場から給食で何を作るから、これを植えてほしいと言われるればすぐに取りかかれる準備はできている。

委員：給食センター建設の際に、地産地消をどのように進めるか聞くと、「年間で何をどれくらい使用するかわかっているので、農家と契約していきたい。」と教育委員会から回答もらっているが、それができていないということは、教育委員会と農林水産課で話し合いをしないといけないのではないか。

事務局：教育委員会と話し合っ、教育委員会と農林水産課、卸売業者や納入業者を含めた会議を定期的開催するよう調整している。

4 地元野菜の評価

委員：安心安全なものを提供してほしい。

委員：地元産の取扱いがどれくらいあるのか。

事務局：1割程度である。

委員：地元産が少ないのにそもそも必要なのか疑問に思う。

5 地域スーパーとの連携

委員：地元スーパーとの取引きが円滑にできるようにしてほしい。

委員：地元スーパーが地元市場を救うべきだと思う。

委員：地元スーパーとの取引きが円滑にできるように協議していき、この場で報告できることは報告していきたい。

3 その他

委員：全国に公設市場がどれくらいあるか、6万人都市でどのくらいあるか調べてほしい。

※今回の協議会の中で、委員から多数意見が出た中で、

「小野田中央青果の存続もしくは廃止がわからないと今後の運営協議会で話を進めていくことができない。」とのことであり、次回もう一度話しあってから、これを第一集約として答申を出すか検討する。

次回開催予定日：令和元年12月4日（水）13：30～

※12月議会と重複した場合は、変更する。

→令和元年11月27日（水）13：30～に変更。

議事終了

散会